

マルコの福音書 14:43-65 裏切りが招いた告白

今日の聖書箇所はマルコの福音書 14:43-65 です。この箇所は引き続きイエスの生涯における最後の週間についてマルコが記したもので、ついにイエスの生涯最後の日の話しとなります。イエスは主の晩餐となる私たちが最後の晩餐と呼ぶ弟子たちとの食事の後、ゲッセマネの園で一晩中祈られたところでした。先週お話ししましたが、この時点でイスカリオテのユダがいなかったことから、イエスを裏切るのは彼であることを弟子たちは知っていたと思われます。ですが今、ゲッセマネの園をイエスと弟子たちが去ろうとしているところにユダが現れ、誰がイエスを裏切るのか疑う余地もなくなりました。まず、43-50 節から、ユダの酷い裏切りについて読んでみましょう。「そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二人の一人のユダが現れた。祭司長たち、律法学者たち、長老たちから差し向けられ、剣や棒を手にした群衆も一緒であった。44 イエスを裏切ろうとしていた者は、彼らと合図を決め、「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえて、しっかりと引いて行くのだ」と言っておいた。45 ユダはやって来るとすぐ、イエスに近づき、「先生」と言って口づけした。46 人々は、イエスに手をかけて捕らえた。47 そのとき、そばに立っていた一人が、剣を抜いて大祭司のしもべに切りかかり、その耳を切り落とした。48 イエスは彼らに向かって言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。49 わたしは毎日、宮であなたがたと一緒にいて教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕らえませんでした。しかし、こうなったのは聖書が成就するためです。」50 皆は、イエスを見捨てて逃げてしまった。」ユダはイエスがいつどこで一番一人になれるかを知っていたので、人目につかずに秘かにイエスを捕らえる機会を最高法院に与えました。そこには最高法院のメンバーか、あるいは少なくとも各グループを代表する者たちがいました。ですから、祭司長たち、律法学者たち、長老たちと、最高法院を構成する3つのグループの人たちがいたと記されています。ここに記されている詳細から、ユダがイエスを裏切ったのは、軽はずみなものでも、その場の思いつきでもなかったことが分かります。挨拶をする際に口づけをすることは普通であったものの、この口づけは頬への軽い口づけ以上のものでした。ここで使われている言語は、これが親しみを込めた口づけであったことを示しています。イエスを先生と呼び、このような親しみを込めた口づけをすることで、ユダはイエスを裏切りあげたのです。ユダの裏切り方において、それは純粋な悪でした。

イエスの反応と、イエスを捕らえに来た人々との違いに注目して下さい。ユダは数人と共にやってきたわけではありませんでした。イエスを捕らえるために来たのは、事実なかなかの大人数でした。ヨハネの福音書によれば、最高法院の代表者たちや宮の下役たちがローマ兵らと共に来たようです。ヨハネの福音書 18 章 3 節と 12 節は次のように言っています。「それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやパリサイ人たちから送られた下役たちを連れ、明かりとたいまつと武器を持って、そこにやって来た。」そして 12 節には「一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り」とあります。高度な訓練を受け武装した人々が、11 人の使徒たちと共にいたイエスを捕らえに来ました。あるいはイエスと共にいたのは、祈るために先に行ったペテロ、ヤコブ、ヨハネの 3 人だけであったかもしれません。47 節に「そのとき、そばに立っていた一人が、剣を抜いて大祭司のしもべに切りかかり、その耳を切り落とした。」とありますので、イエスに従った者の中で少なくとも一人は武器を持っていたようです。使徒ヨハネはこの者がペテロであったと記しています。ヨハネの福音書 18:10 には「10 シモン・ペテロは剣を持っていたので、それを抜いて、大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。」とあります。またルカの福音書では、イエスが耳を癒したと伝えています。ルカの福音書 22:50-51 にこうあります。「そして、そのうちの一人が大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。51 するとイエスは、「やめなさい。そこまでしなさい」と言われた。そして、耳にさわって彼を癒やされた。」もちろんマルコはそのような詳細をすべて伝えることを意図しておらず、単にこの小さな弟子たちの群れが、自分たちに向かってきた大勢に対してできたことはそう多くはなかったということを示したかったのです。彼らにできたことは耳一つ切り落とすくらいのもので、数でも力でも彼らは間違いなく負けてい

ました。イエスは最高法院の者たちに対して、ほんの数日前にも宮で彼らと何時間も議論していたにも関わらず、自分を捕らえようとしなかったことを指摘しました。要するに彼らの臆病さを指摘したのです。イエスはご自分が彼らに従って捕らえられることは、強制されたからではなく、神のご計画に従ったからであることを明確にされました。49節でイエスは「しかし、こうなったのは聖書が成就するためです。」とされています。そして、50節で「皆は、イエスを見捨てて逃げてしまった。」とあるように、イエスの弟子たちに関する預言は成就しました。そしてここで、皆がイエスのもとを去ったことについて、場違いとも思えるとても興味深い記述を見ます。マルコ14章51節と52節にある、捕らえることに失敗した件です。「51 ある青年が、からだに亜麻布を一枚まとっただけでイエスについて行ったところ、人々が彼を捕らえようとした。52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、裸で逃げた。」この部分はイエスが捕らえられたことに関する他の記述にそぐわないように見えます。マルコがなぜこの部分を彼の記述の中に加えたかについて、長い間多くの説明がされてきました。使徒ペテロの居場所についてはこの後に詳しく記されているので、マルコがここで語っているのはペテロのことではなさそうです。一番じっくりくる説明は、マルコが自分自身のことについて書き記したというものです。この時点で彼は若者で、弟子のひとりではありませんでしたが、何らかの形でイエスに従う者たちの大きなグループの一人でした。マルコはイエスが捕らえられた際にその場にいたものの、その出来事の中では重要ではなかったことを示しています。また、あえて自分の名前を記すほど重要な人物だとも思っていませんでした。ペテロについての記述の中に、マルコは自分がこの出来事を全く知らないわけではないということを示したわけですが、この余談を加えた後、マルコはイエスとその次に起こる違法な裁判に話題を進めます。53-61節を見てください。「53 人々がイエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長たち、長老たち、律法学者たちがみな集まって来た。54 ペテロは、遠くからイエスの後について、大祭司の家の庭の中にまで入って行った。そして、下役たちと一緒に座って、火に当たっていた。55 さて、祭司長たちと最高法院全体は、イエスを死刑にするため、彼に不利な証言を得ようとしたが、何も見つからなかった。56 多くの者たちがイエスに不利な偽証をしたが、それらの証言が一致しなかったのである。57 すると、何人かが立ち上がり、こう言って、イエスに不利な偽証をした。58 『わたしは人の手で造られたこの神殿を壊し、人の手で造られたのではない別の神殿を三日で建てる』とこの人が言うのを、私たちは聞きました。」59 しかし、この点でも、証言は一致しなかった。60 そこで、大祭司が立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えないのか。この人たちがおまえに不利な証言をしているが、どういうことか。」61 しかし、イエスは黙ったまま、何もお答えにならなかった。」この箇所はペテロが遠くからイエスについていくところから始まります。来週この箇所に戻りますが、物語の中心はペテロにあります。

今日は、裁判とその違法性に注目します。ユダヤ人は裁判について特別な規則を持っており、それはミシュナーに書き記されるところとなりましたので、それらの規則がどのようなものであったのかを知ることができます。この裁判は多くの点で、最初の裁きを行った最高法院の法的要件に違反していました。55節に「最高法院全体」とあるのがサンヘドリンと呼ばれる人たちでした。ESV訳では、他の箇所でもサンヘドリンとあるのをここでは評議会と訳しています。なぜそのように訳されているかは分かりませんが、これは70人のユダヤ人指導者たちからなる組織で、宗教的なこと全てと、ローマ政府のための政治的な役割の多くを担っていました。最高法院で起こったすべてのことは基本的に違法でした。なぜかという点、裁判は安息日が始まる日に行われるべきではなく、また、人々が裁判が行われることを知っていて、最高法院のために用意された場所で行われなくてはならないのに、大祭司カヤパの家で行われたからです。それがペテロが大祭司個人の家の中にいた理由でした。この後に見られるように、死刑の判決が下された裁判の後には、その翌朝、死刑を執行する権利を持つローマ政府に引き渡される前に、改めて裁判が行われるべきでした。ですが、ここでは、この裁判における最大の不正である偽証人を見ます。旧約聖書には偽証について明確な戒めがあり、出エジプト記20:16にある十戒の第9の戒め「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」というのもその一つです。最高法院は問題を抱えていました。それは申命記17:6に「二人の証人または三人の証人の証言によって、死刑に

処さなければならない。一人の証言で死刑に処してはならない。」とあるからです。重要な建物を破壊するといった、今日われわれがテロ活動と判断するような破壊的な発言をイエスがしたということに同意する2人の目撃証言が必要でした。もちろん、イエスは実際の宮の破壊を脅かすような発言をしておらず、ご自分の死について語られていただけです。イエスの発言をヨハネの福音書 2:18-20 に見ることができます。「すると、ユダヤ人たちがイエスに対して言った。「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか。」 19 イエスは彼らに答えられた。「この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれをよみがえらせる。」 20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかった。あなたはそれを三日でよみがえらせるのか。」」イエスは明らかにご自分が使者の中から復活されることについて語っておられたのであって、宮の建物に対する脅しではありませんでした。ですが、イエスを半合法的に死刑にする方法を模索していた最高法院にとって事実が何かなど問題ではありませんでした。そしてイエスは、彼らが望んでいたこと、つまりご自分が十字架にかかる理由を自らの言葉で告白されます。61 節の途中から 65 節まで読みましょう。「大祭司は再びイエスに尋ねた。「おまえは、ほむべき方の子キリストなのか。」 62 そこでイエスは言われた。「わたしが、それです。あなたがたは、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることとなります。」 63 すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「なぜこれ以上、証人が必要か。 64 あなたがたは、神を冒瀆することばを聞いたのだ。どう考えるか。」すると彼らは全員で、イエスは死に値すると決めた。 65 そして、ある者たちはイエスに唾をかけ、顔に目隠しをして拳で殴り、「当ててみる」と言い始めた。また、下役たちはイエスを平手で打った。」

大祭司、私たちはそれがカヤパであることを知っていますが、彼は偽証人たちが死刑を宣告するに値するような証言をしないことにいら立っていました。そこで彼はイエスに直接尋ねました。「おまえは、ほむべき方の子キリストなのか。」彼は神の御名の代わりにほむべき方という言葉を使用しましたが、これは神の名を口にする事なく神を指す、ユダヤ人が用いる言葉の一つでした。つまり、「おまえは神の子、メシヤ（キリスト）なのか」と尋ねたのです。イエスは公に教えておられる中で何度もその事実に触れておられましたが、自分がメシヤであると主張することは、ローマがイエスを十字架につける理由には決してならなかったでしょう。事実、自分が旧約聖書で預言されているメシヤだと主張しても罰せられることなくこの世を去った偽メシヤが他にもいました。イエスは質問に率直に答えて言われました。「わたしが、それです。あなたがたは、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることとなります。」英語は、そしておそらく日本語は、これがどのように聞こえたかを明確に示していません。マルコの福音書の中でイエスが「わたしが、それです。」とここで訳されている形で言われたのはこの時だけです。数年前に私がヨハネの福音書の説教をした際に、福音書の中でイエスが7つの異なる「わたしはある」という発言をされたことについて説明したことを覚えておられる方もいるかもしれませんが、マルコの福音書においてはこの一か所だけです。ですから、これはとても重要なことなのです。大祭司の反応から、イエスが神の個人的な名前であるヤーウエあるいは「わたしはある」という言葉を、ご自分のものとして宣言しているかのように受け取られることを意図していたことが明らかです。神の名についてのこのような理解は、出エジプト 3:14 で神がモーセにご自分を示されたときに使われた言葉にまでさかのぼります。「神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところへ遣わされた、と。」」このヘブル語でヤーウエ、英語で I AM という名前は、大祭司がその名前を誤って使わないように、神の子ではなく「ほむべき方の子」と言うほど特別なものでした。その言葉を聞いた誰もが、イエスがご自分のことをメシヤであるだけでなく、「力ある方の右の座に着き」と言われることで、神の御座が正当な居場所である神ご自身であると宣言したのだと認識しました。そしてご自身が「天の雲とともに来る」とき、裁きにおいて超自然的な方法で人々に啓示されるのは、神としての自分であると明言しておられます。メシヤ、キリストであると主張することは死刑に値する罪ではありませんでしたが、神の栄誉を自分のものと主張して神を冒瀆することは、モーセの律法のもとでは死に値する罪でした。レビ記 24:16 には「主の御名を汚す

者は必ず殺されなければならない。全会衆は必ずその人に石を投げて殺さなければならない。寄留者でも、この国に生まれた者でも、御名を汚すなら殺される。」とあります。嘘がイエスを十字架にかけたのではなく、イエスが何者であるかという事実が決め手となったのです。そして、神を敬うはずの宗教指導者たちが用意した偽の証人ではなく、イエスをご自分こそ彼らの神であり、彼らが礼拝すべき方であると公然と宣言したのです。礼拝するどころか、イエスの死を求めることによって、彼らはメシヤを完全に拒絶しました。そしてイエスを殴り虐待するローマ兵が下役に彼を引き渡しました。この世を造られた神は、私たちの救いのための神の究極のご計画が成就するために、ご自分を崇拜していると主張する人々から侮辱され、あざけられ、殴られることをいとわれませんでした。皮肉なことは、最高法院がイエスの預言の能力をあざ笑っている間にも、イエスの預言はことごとく成就し、イエスこそが子なる神であることから、イエスが神を冒涇していると非難した大祭司こそが実際には冒涇者であるということです。

この箇所には、イエスの苦しみを見、何がイエスの死につながっているのかを理解でき始めたと思います。ですが、私たちは常に、だから何なのかと問う必要があります。イエスの十字架刑についての知識を深めることが私たちの目的なのでしょう。そうではありません。ヘブル人への手紙 13:8 に「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。」とあります。イエスをご自分が神であり、ご自分が後に、そして今もすべてを支配されるお方であることを「わたしが、それです。あなたがたは、人の子が力ある方の右の座に着き」と言って明言されました。イエスはその時言われたことには変わりはありません。イエスはこの世の御座におられます。父なる神と並んで御座におられ、私たちのために執り成しておられます。ローマ人への手紙 8:34 でそのことについてこう書かれています。「だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。」イエスは世を支配され、統治し、ご自分に従う者たちのために父なる神に対しておっしゃいます。「この者は私のものです。私の子に恵みを注いでください。」私たちが問うべきは、私たちは王であるイエスとその支配に従っているだろうかということです。私たちはあまりにも頻りに、ユダのように見せかけの口づけで王を裏切り、主イエスを拒むことを選んでしまいます。あるいは、大祭司や最高法院のように、表向きは神を崇拜していると主張しますが、イエス・キリストによる救いと私たちの人生を支配する神のご計画を拒んでしまいます。この世には二つの道しかありません。イエスを人生の王として生きるか、イエスが主であり救い主であることを拒み、自分自身を人生の中心において生きるかです。一方はあなたのために進んで十字架にかかってくださったイエスを通して永遠の命をもたらす、もう一方はあなたの罪が贖われないうちに神の怒りの下にあり永遠の死をもたらします。あなたはどちらの道を選びますか。

Mark 14:43-65 A betrayal leads to a confession

Today we are in Mark 14:43-65. This passage continues the story of the last week of Jesus's life that Mark is giving us, and in fact, we are now in the last day of Jesus's life. Remember that Jesus has just finished a time of overnight prayer in the Garden of Gethsemane after having what we call the last supper with his disciples where he instituted the Lord's Supper. I mentioned last week that it is likely that the rest of the disciples knew at this point that Judas Iscariot was the one who would betray Jesus since he was not in their group at this point. But now, he would come back into the scene in the Garden of Gethsemane as Jesus and his disciples prepare to leave, and no one will have any doubts who betrays Jesus. Let's begin by reading the account of **An evil betrayal** undertaken by Judas in verses 43-50. ⁴³ **And immediately, while he was still speaking, Judas came, one of the twelve, and with him a crowd with swords and clubs, from the chief priests and the scribes and the elders.** ⁴⁴ **Now the betrayer had given them a sign, saying, "The one I will kiss is the man. Seize him and lead him away under guard."** ⁴⁵ **And when he came, he went up to him at once and said, "Rabbi!" And he kissed him.** ⁴⁶ **And they laid hands on him and seized him.** ⁴⁷ **But one of those who stood by drew his sword and struck the servant^[e] of the high priest and cut off his ear.** ⁴⁸ **And Jesus said to them, "Have you come out as against a robber, with swords and clubs to capture me?"** ⁴⁹ **Day after day I was with you in the temple teaching, and you did not seize me. But let the Scriptures be fulfilled."** ⁵⁰ **And they all left him and fled.** Judas provided the Sanhedrin the quiet opportunity away from crowds to arrest Jesus, because he knew when and where Jesus would be most alone. The Sanhedrin themselves were present or at least representatives from each group in it were. That's why we are told that there were chief priests, scribes and elders in verse 43, the three groups that made up the Sanhedrin. The details we are given show that Judas's betrayal of Jesus was not half-hearted or being second guessed on his part. While a kiss would have been a normal way to greet someone, this kiss is more than a peck on the cheek. The word in the original language shows this was a passionate kiss. By calling Jesus, Rabbi, and giving this lavish kiss, Judas was making a mockery of Jesus with his betrayal. This was pure evil in the way that Judas carried it out.

Notice the difference between Jesus's response and those who came to arrest him. Judas did not come simply with a few people. The crowd who comes to arrest Jesus is actually somewhat large. The Gospel according to John actually tells us that it includes at least some Romans soldiers along with the Sanhedrin representatives and likely temple police. **John 18 verses 3 and 12** tell us, ³ **So Judas, having procured a band of soldiers and some officers from the chief priests and the Pharisees, went there with lanterns and torches and weapons.** Then verse 12 **So the band of soldiers and their captain and the officers of the Jews arrested Jesus and bound him.** A highly trained armed crowd of people came to arrest Jesus who was with 11 disciples, and possibly only the 3, Peter, James and John who went ahead to pray with him. There was at least one of Jesus's followers with his own weapon, since we are told in verse 47 that **one of those who stood by drew his sword and struck the servant^[e] of the high priest and cut off his ear.** The apostle John also tells us that the one who did this was Peter. **John 18:10** says, **10 Then Simon Peter, having a sword, drew it and struck the high priest's servant and cut off his right ear. (The servant's name was Malchus.)** And the gospel according to Luke tells us that Jesus restored the ear. **Luke 22:50-51** says, **50 And one of them struck the servant of the high priest and cut off his right ear. 51 But Jesus said, "No more of this!" And he touched his ear and healed him.** Of course, Mark's goal is not

to give us all those details, but simply to show that there is not a lot that this small group of disciples can do against the crowd that comes against them. The best they could do was to take off an ear...they were definitely out numbered and outpowered. Jesus pointed out to the Sanhedrin that he had spent many hours with them just days ago debating in the temple, and yet did nothing to arrest him. He is essentially pointing out their cowardice. Jesus makes clear that he goes along with their arrest not because he feels forced or coerced into it, but because he is following God's plan. He says in verse 49, **But let the Scriptures be fulfilled.** Then, Jesus's prophecy regarding his disciples is fulfilled when we are told in verse 50, **they all left him and fled.**

Then comes a very interesting comment in the text related to everyone leaving Jesus that seems to be out of place. We see that in verses 51 and 51 of Mark 14 with **An attempted arrest.** **⁵¹ And a young man followed him, with nothing but a linen cloth about his body. And they seized him, ⁵² but he left the linen cloth and ran away naked.** This doesn't seem to fit with the rest of the account of Jesus's arrest. There have been many explanations over the years as to why Mark included this as part of the text. It does not seem to fit with an account by the apostle Peter which is whose experience Mark is relating to us, since Peter's location is dealt with next and then later in the text in detail. The best explanation that seems to fit is that this is Mark showing us himself in the text. At this point he is a young man, not one of the disciples, but he was in that larger group of followers of Jesus who were close to him in some way. Mark is showing us that he was there at his arrest, but was not important to the events that were happening. He also does not consider himself important enough to even name. It is a small humble way of showing that although this is Peter's story, Mark is not a complete stranger to the events. But after adding this sort of "aside" to the text, Mark returns to Jesus and what happens next, **An Illegal Trial.** Look at verses 53-61. **⁵³ And they led Jesus to the high priest. And all the chief priests and the elders and the scribes came together. ⁵⁴ And Peter had followed him at a distance, right into the courtyard of the high priest. And he was sitting with the guards and warming himself at the fire. ⁵⁵ Now the chief priests and the whole council^[f] were seeking testimony against Jesus to put him to death, but they found none. ⁵⁶ For many bore false witness against him, but their testimony did not agree. ⁵⁷ And some stood up and bore false witness against him, saying, ⁵⁸ "We heard him say, 'I will destroy this temple that is made with hands, and in three days I will build another, not made with hands.'"⁵⁹ Yet even about this their testimony did not agree. ⁶⁰ And the high priest stood up in the midst and asked Jesus, "Have you no answer to make? What is it that these men testify against you?"^[g] ⁶¹ But he remained silent and made no answer.** This part of the passage opens with Peter following Jesus at a distance. We will come back to this next week, though as the story centers on Peter.

For today, the point is in the trial and the illegal nature of it. The Jews had specific rules for trials that eventually were written down in the Mishnah so we know what those rules were. Many things about this trial violated what we know about legal requirements before the Sanhedrin, which is the group that conducted this first trial. The term "**whole council**" here in verse 55 is the word Sanhedrin. Why the ESV uses council here and Sanhedrin other places, I don't know, but this is that body of 70 Jewish leaders that were in charge of all things religious and many things politically for the Roman government. And everything that happens in front of the Sanhedrin is basically illegal. There are problems because this trial should not happen on the day the Sabbath will

begin, the location should have been in the area set aside for the Sanhedrin where people knew trials would take place, but instead it took place at the house of the high priest, Caiaphas. That's why we are told that Peter is in the courtyard of the high priest...it is his personal home. After a trial that results in a capital verdict of death, which we will see happen, there should have been another fresh trial held the next morning before moving it to the Roman government who had the right to put someone to death. But in this passage, we see the greatest fraud in this trial – false witnesses. The Old Testament had very clear commands against false witness, not the least of which is the ninth commandment of the ten commandments in [Exodus 20:16](#), [You shall not bear false witness against your neighbor](#). The Sanhedrin had a problem, because [Deuteronomy 17:6](#) says, [On the evidence of two witnesses or of three witnesses the one who is to die shall be put to death; a person shall not be put to death on the evidence of one witness](#). They needed two agreeing eyewitnesses that Jesus had made subversive statements that seemed to indicate terrorist type activities as we would think of them today when it comes to destroying a significant building. Of course, Jesus had not made that statement in any way threatening the actual temple, but talking about his death. We see his statement in [John 2:18-20](#), [18 So the Jews said to him, "What sign do you show us for doing these things?" 19 Jesus answered them, "Destroy this temple, and in three days I will raise it up." 20 The Jews then said, "It has taken forty-six years to build this temple, and will you raise it up in three days?"](#) Jesus was clearly speaking about his resurrection from the dead, and not making a threat against the physical building of the temple. But truth was not a concern as the Sanhedrin was trying to find a semi-legal way to put Jesus to death. Then Jesus gives them exactly what they want, an actual reason for his crucifixion in his own words as Jesus makes a **A stunning confession**. Let's read starting in the middle of verse 61 - verse 65. [Again the high priest asked him, "Are you the Christ, the Son of the Blessed?" 62 And Jesus said, "I am, and you will see the Son of Man seated at the right hand of Power, and coming with the clouds of heaven." 63 And the high priest tore his garments and said, "What further witnesses do we need? 64 You have heard his blasphemy. What is your decision?" And they all condemned him as deserving death. 65 And some began to spit on him and to cover his face and to strike him, saying to him, "Prophesy!" And the guards received him with blows.](#)

The high priest, who we know is Caiaphus was frustrated because the false witnesses were not giving them enough to make him worthy of the death penalty. So, he asks Jesus directly, [Are you the Christ, the Son of the Blessed?](#) He uses the word blessed instead of the name of God which was one of the Jewish ways of saying God without saying God's name. So, he is asking him, "Are you the Messiah (Christ), the Son of God." Jesus has alluded to that fact many times in his open ministry, but claiming to be the Messiah would never have been a reason for Rome to crucify Jesus. In fact there were other false Messiahs who came and went without being punished for claiming to be the Messiah prophesied in the Old Testament. Jesus is direct with his answer, and says, [I am, and you will see the Son of Man seated at the right hand of Power, and coming with the clouds of heaven](#). The English and likely the Japanese is obscuring the way this would have been heard. This is the only time in the book of Mark where Jesus makes the statement, "I am" in the way that he does. For some of you who were here when I preached through the book of John years ago, you may remember that in that Gospel, Jesus makes 7 different "I am" statements, but only this one in Mark. So, this is extremely important. Given the response of the high priest, it is clear that Jesus

intended this to be heard as him declaring for himself the personal name of God – Yahweh or I AM. This understanding of God’s name goes back to [Exodus 3:14](#) where God introduces himself to Moses with the words, [14 God said to Moses, “I am who I am.”](#) And he said, [“Say this to the people of Israel: ‘I am has sent me to you.’”](#) This name, YAHWEH in Hebrew, I Am in English was so special that the high priest would say [“Son of the Blessed”](#), rather than Son of God so he could avoid accidentally misusing the name. Everyone listening recognizes that Jesus has just proclaimed that not only is he the Messiah, but God himself whose rightful place is on God’s throne, [“seated at the right hand of Power.”](#) And then he clearly says that it is as God that he would be revealed to them in a supernatural way in judgement at some point when he, [“comes with the clouds of Heaven.”](#) It was not a crime worthy of the death penalty to claim to be the Messiah, the Christ, but to blaspheme by claiming for yourself the honor that belongs to God himself, that was a capital crime under the Mosaic law. [Leviticus 24:16 says, 16 Whoever blasphemes the name of the Lord shall surely be put to death. All the congregation shall stone him. The sojourner as well as the native, when he blasphemes the Name, shall be put to death.](#) Lies would not condemn Jesus to the cross, but the truth about who he was would be the deciding factor. And rather than false witnesses paid off by these supposedly God-fearing religious leaders, Jesus himself openly declares himself to be their God, and the one they should be worshipping. Rather than worship, they make their rejection of their Messiah complete by calling for his death. They hand him over to either Roman guards or temple police who begin to abuse him with strikes and blows. The God of the universe subjected himself to insults and mockery and beating by those who claimed to worship him so that the ultimate plan of God for our salvation could be fulfilled. The irony of all of this is that while the Sanhedrin mock Jesus’s ability to prophecy, every one of his prophecies will come true, and the high priest who accuses Jesus of blasphemy is in fact the blasphemer, because Jesus is God the Son.

I hope in this text, you have begun to see the suffering of Jesus and understood what is leading to his death. But we always need to ask, so what? Is more knowledge of Jesus’s crucifixion our goal? No, it’s not. [Hebrews 13:8 says, Jesus Christ is the same yesterday and today and forever.](#) When Jesus makes clear that he is God and that he will and now is reigning by saying, [I am, and you will see the Son of Man seated at the right hand of Power;](#) What Jesus said then has not changed. Jesus is on the throne of this universe. He is seated alongside God the Father making intercession for us. [Romans 8:34 asks based on that, “Who is to condemn? Christ Jesus is the one who died—more than that, who was raised—who is at the right hand of God, who indeed is interceding for us.”](#) Jesus rules and reigns and goes to God the Father on behalf of his followers saying, “this one is mine, pour out your grace on my child.” And the question we need to ask is are we following our king Jesus and his rule over us? Too many times, we are like Judas, betraying our king with a lavish public kiss, while choosing to reject him as our Lord. Or like the high priest and Sanhedrin, outwardly claiming to worship God but rejecting God’s plan for salvation through Jesus Christ and rule over our life. There are only two ways to live in this world, with Jesus as the king of our lives or rejecting Jesus as Lord and Savior and putting ourselves at the center of our lives. One brings eternal life through Jesus who willingly went to the cross for you, the other brings eternal death under God’s wrath because your sin is not paid for. Which way will you choose?